

道議会新庁舎建設はこのままでいいのか⑤

# リニア談合の「大成」と本契約

## 予算通過後に指名停止の離れ業 民意無視で建設される「議員の城」

2020年春の使用開始を予定している道議会新庁舎の建設工事が4月から始まった。道庁本庁舎横の駐車場は撤去され、大型連休後には総額120億円を超えると言われる新庁舎の基礎工事が本格化する。道議会新庁舎をめぐるのは建設計画の審議と決定過程にさまざまな疑問が投げかけられたが、ここに来て先ごろ逮捕者を出したリニア談合事件がこの事業を揺さぶる事態が発生。だが、本来なら契約が解除されるべきゼネコンがそのまま本体工事を請け負うなど、道民が到底納得できない経緯のまま槌音が響き始めている。(ジャーナリスト 黒田伸)

### 議会と道の巧妙なシナリオ

本来なら請負工事契約が解除されて当然と思われる業者、大成建設(本社東京)を軸にした共同企業体(JV)が落札した道議会新庁舎の本体

工事が始まっている。

何としてでも予定通り新庁舎を建設したい道議会と道が書いたとみられるシナリオは、手の込んだものだった。

問題となったのは、リニア中央新

始まった新庁舎の建設工事(右上の建物が現在の議会庁舎)



幹線工事の談合問題で大成建設元常務執行役員らが3月2日に逮捕された事件だ。この動きを受けて東京都は同日中に同社を指名停止処分にした。公共事業を発注するうえで談合はあってはならないものであり、常に公正取引委員会などが目を光らせている。逮捕者が出た場合は、自治体が速やかに指名停止にする必要がある。

だが今回の道議会庁舎の場合、大成JVとすでに仮契約を済ませていたため、それを解除する文言が仮契約書や入札公告になかったことが「抜け道」となった。

大成建設から逮捕者が出たことを受けて、道が審査委員会を開くための予備審査を行なう課長級幹事会を開催したのは10日後の3月12日だったという。この遅れについて「通常でも2週間くらいかかる」という担当部署の談話が新聞に掲載されていたが、「なるべく審査委員会を遅く開催し、道議会で大成JVの工事案件を可決させたい」という道の意向が働いたことは想像に難くない。

開催された審査委員会では、道の発注工事で仮契約を結んだ業者を指名停止にした時に、仮契約でも解除

できる仕組みを導入することが決まった。報道によれば、高橋はるみ知事が最終決断を行なったのは3月20日だったという。まさにこの日は、道議会で本契約の議案が可決されるタイミングだった。

定例道議会は同日、本会議を開き2018年度一般会計予算案を含む議案106件を原案通り可決し閉会した。一般会計の総額は2兆7498億円で、本年度分として道議会庁舎の建て替え費用に21億3千万円が計上された。

今年度の一般会計予算は、高橋知事の4期目最後の本格予算であると同時に、知事としての最後の予算編成になる可能性もある。道議会庁舎の建設問題が道議会各党派と道、知事との間ですんなりと決められてきた背景には、「4期で最後だから」という暗黙の了解があったとも読める。

大成建設と本契約を結ぶことに道民の反発は少ないと見たのか、高橋はるみ知事は3月20日の記者会見で「指名停止にした業者との仮契約を解除できる仕組みを導入し、再発防止に努めます」という言葉で切り抜け、予定通り大成JVが本体工事を請け負うことを発表した。

## 「再発防止策」で煙に巻く知事

道議会で可決された議案によると、新築される庁舎の2つの施工区域のうち南側部分を大成建設が代表の共同企業体(JV)に37億8300万円を発注。共産党は大成建設の巨額談合を批判して反対に回り、残り4党派は賛成した。

知事は先の会見で仮契約が解除できる内規改正について、「道民の疑念を払拭するために、できるだけ早く導入したい」と述べた。

道の調べによると、全国29都府県が入札の公告や仮契約書などに「本契約までに指名停止になった場合、仮契約を解除できる」と明記しているという。この中で、大成建設との仮契約を解除しなかった理由について知事は、「損害賠償を請求される可能性があった」と説明した。

大成建設との契約には先の道議会で異論が上がり、市民団体も公開質問状を出して抗議したため、知事は再発防止策を打ち出して幕引きを図ったともいえる。

結局、道はリニア中央幹線工事の談合事件で摘発された大成建設を3月21日から6カ月間の指名停止と

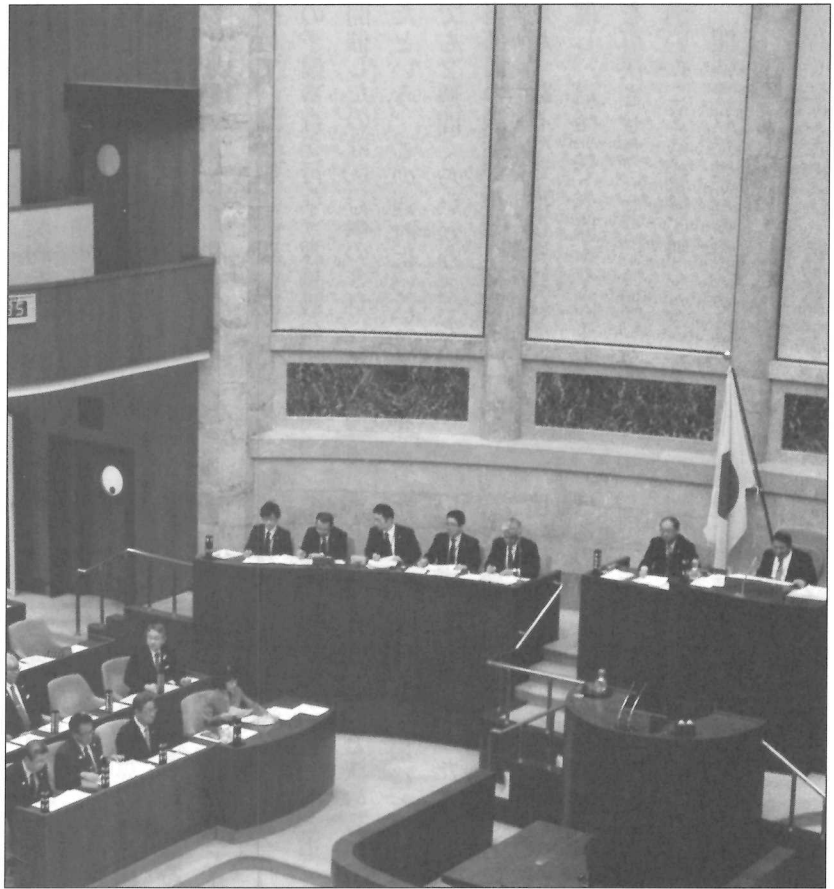
し、ホームページ上で同日公表した。そしてその後、道は大成建設と正式契約を結ぶに至った。

まずは議会で予算を通過させ、その後指名停止処分を行なう——。これは納得できない経緯だ。道は内規で、道外の業務で独占禁止法違反容疑の逮捕者が出た業者に対し、速やかに6カ月間の指名停止にするとしている。本来なら東京都が下したように、3月2日時点で大成JVに對して指名停止処分を行なうのが筋だろう。

この問題を見ていくと、それまでして道議会新庁舎の建設を急ぐ理由は何なのかと首をひねってしまう。新庁舎問題を2年以上追及している市民団体「北海道の未来を拓く会」(新藤大次郎代表)は3月16日、今回のことについて高橋知事と各党派宛てに質問状を送った。高橋知事宛ての内容は次のようなものだ。

【道議会庁舎新築工事契約に関する件での公開質問書】

当会は、議会庁舎建て替えに関してかねてより「議会庁舎建て替えは一旦、立ち止まって再検討すべき」と申し上げてきましたが、「リニア談合で指名停止の大成と契約へ」とい



道議会新庁舎の建設予算案を可決した道議会(3月20日)

う新聞記事を読んで驚きました。議  
会庁舎建て替えを急いだ挙句、談合  
事件で逮捕者が出ている渦中の業者  
と契約を進める件について、知事の  
政治姿勢を含めて幾つかの項目につ  
いてお伺いいたします。

(質問1)税金で賄う公共事業におけ  
る談合は、悪質な犯罪であるとの認  
識を知事はお持ちですか。この件に  
ついて、知事のご見解をお聞かせく

ださい。

(質問2)このまま契約を進めること  
で、北海道は談合に甘いと世間に示  
す事になりますか、この件に関して  
知事のご見解をお聞かせください。

(質問3)「入札で落札した業者との  
仮契約を解除する内規がないから解  
除できない」との事ですが、そもそ  
も今回の件で入札を発注する以前よ  
り、リニア談合事件は公取、検察当

局が立件を視野に捜査に入っている  
事は報道でも報じられておりまし  
たので、知事もその事はご存知の事と  
思います。強制捜査で逮捕者も出る  
事も時間の問題だと思われていた中  
で、その渦中の業者を入札に参加さ  
せ、結果、談合事件で逮捕された業  
者に発注するとの最悪の事態を招い  
た訳ですが、入札の際に、特記項目  
で、「落札業者に指名停止に該当する  
同等の不正が発覚した場合は契約を  
解除する」旨を書き加えれば、今回  
の様な事態は招かなかったことと思  
います。それを怠ったのは、発注者  
側の知事の責任であります。

今回の件では、途中で解約出来る  
内規がないから解除ができないとの  
言い訳は通じません。内規は法律や  
条例と異なり、法的な拘束力を持ち  
ません。役人の判断で決められない  
時には、知事が政治判断すれば、簡  
単に出来る事です。談合事件で逮捕  
者がでた後、東京都知事は速やかに  
関係した業者を指名停止の処置を  
行っております。また仮契約の物件  
も契約解除の処置を行なったと伝え  
られています。それに比べ、北海道  
では未だ何の処置も行なわず、仮契  
約の解除すら出来ないと言いつつ





大成建設と本契約を結ぶ道を選んだ高橋知事

べておりますが、知事は政治家です。知事が決断すれば、直ぐにでも出来ることが何故出来ないのですか。私達道民は到底納得できません。

談合事件で逮捕された業者に対して、何のペナルティーを科さないまま契約すること。知事、どうか道民の厳しい目線があることを忘れないでください。

ここでご提案ですが、知事は今回の入札での件での契約は一旦凍結し、談合には厳しく、襟を正す姿勢を示して頂けませんか。知事は道民に向けて説明責任を果たして頂きたいのですが、それは無理な事でしょうか。

無理なら何故無理なのかをご説明願います。

「民意を無視した愚かな判断」

公開質問状は道議会の大谷亨議長と、自民党・道民会議を除く4会派に送り、回答を求めた。最大会派の自民党・道民会議は大谷議長長の回答を会派の回答とした。結果は、共産党が仮契約の解除を訴えたが、ほかはいずれも「道には仮契約を解除できる仕組みがない」とし、契約を正當化している。

3月22日に届いた高橋知事の回答は次の通りだ。

「公共工事の入札に当たりましては、道民の信頼の確保と建設業の健全な発達を図る観点から、入札に参加する者の間の公正な競争が促進されるとともに、談合その他の不正行為の排除が徹底されるべきものと考えております。

この度の道議会庁舎の改築工事の仮契約につきましては、道の仮契約約款上、仮契約の締結後、当該契約の解除について検討することができるとしている事由が発生していないため、引き続き、法令や規則等に基づき、適切に契約事務を進めることとしております。

なお、東京都では、指名停止に該当する事案が発生した場合、仮契約の解除ができるよう仮契約約款等を定めており、道とは異なる取扱いとなっていると承知しております。

今後、こうした契約事務の混乱の未然防止と道民の皆様のご懸念を払拭するためにも、指名停止等のあった場合における仮契約の取扱いについては、他の都府県の取扱いなども十分精査した上で、仮契約約款等の見直しを速やかに進めてまいります」

この回答に対し、「拓く会」の新藤会長は「道民の声を聞かずに建設を



質問書を道議会各会派に手渡す未来を拓く会のメンバー(3月16日)

急いだ挙句に談合業者に発注する行為は、民意を無視した愚かな判断ではないのか。談合で汚れた業者が建てた『談合庁舎』が完成したとして、果たして、道民は本当に喜ぶのでしょうか。これは、来春の知事選道議選で大きなテーマとして有権者に民意を問う問題です。民意の結果次第では、工事はいったん凍結し、解体にする流れになってもおかしくない大きな問題だと思います」と手厳しく批判している。